

第3回「学びの変革」委員会 報告

校長(委員長)	○	教 頭	出張	総括事務長	校務	主幹教諭	○
指導教諭	○	総務部長	○	進路指導主事(中核教員)	○	実践推進リーダー	○
1学年主任	○	2学年主任	○	3学年主任	○		

1 校長から

(1) 協働的な学びについて

生徒から「授業で他の人の考えを知ることができてうれしい」などの意見があった。協働的な学びが定着しつつあると思う。他者の意見を参考にしながら自分の意見を考えるという授業構成が順調にいつているのではないか。

(2) ICT活用について

- ・「学びの変革は、教えの変革である」

思考力の深掘りをするためには、いままでのどこかの時間を削らないといけないが、そのためにICTの活用、書画カメラの使用を進めて欲しい。最低限、書画カメラを使用し、ICT活用は日常の光景になるように。できない理由を探すより、どのようにしたらできるのかを提案すること。

- ・学年主任：書画カメラを週休日には職員室保管庫で管理する。

(3) 探究コアスクール予算措置について

講師，先進校視察，研究会参加検討 1年次の実施部分はその予算を活用し，2，3年次については予算執行計画を速やかに作成すること（教頭，中核，実践推進リーダー）

2 1年次の指導案についての説明・質疑応答

- ・評価が，目標に対する評価になってない。
- ・目標が「知る」であるので，評価は，習得できたか，できていないかとすべきである。
- ・生徒自身に自己評価をさせないといけない。また，それに対し，教員が4段階でルーブリック評価を行う必要がある。
- ・「尾北検定」の中にKJ法，ワールドカフェなどのスキルの習得などの項目を加え，合格・不合格で評価することが必要。「尾北検定」に収斂させていく。
- ・モデルとなる良い例を，全体で共有する場面をつくる必要がある

3 2年次の「産業社会と人間」についての説明・質疑応答

- ・1年次の課題探究をもとに，学問系統ごとに課題発見・解決策を提示する。

3 3年次の「課題研究」について

(1) 説明

- ・課題発見・解決策のまとめを行う。
- ・現在は，まとめ論文の作成に入る段階で，論文の章立てと役割分担を行っている。
- ・発表は7月の予定

(2) 課題

- ・評価方法について，より詳細なものとする必要がある。